

TOYOBO NOW

第162期 中間報告書 2019年4月1日~2019年9月30日



CONTENTS

株主のみなさまへ

事業別業績の概要

TOPICS

- セラミックコンデンサ用
離型フィルム加工設備を増設
- フィルム&コーティング分野の
事業基盤強化
- コラーゲン使用人工骨「ボナーク®」の
製造販売承認を取得

業績ハイライト

会社の概要・株式の状況

株主メモ

この作品には当社の折れるポリエステルフィルム「オリエステル®」を使った、「オリエステルおりがみ®」が使用されています。
「オリエステルおりがみ®」はこちらのHPで詳しくご紹介しています。
<https://origami.olyester.net/>





株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間(以下、「当期間」といいます。)における当社グループを取り巻く世界経済は、米中貿易摩擦の激化、英国のEU離脱問題による先行き不透明感を受け、景気減速感が強まりました。国内においては、内需は堅調に推移したものの、世界経済の影響を受け景況感は足踏み状態となりました。

このような環境のもと、当社グループは、「2018年中期経営計画」において成長分野として位置づけた「フィルム&

コーティング」、「モビリティ」、「ヘルスケア&ウェルネス」に注力しています。

当期間では、「フィルム&コーティング」において、液晶偏光子保護フィルム「コスモシャインSRF®」やセラミックコンデンサ用離型フィルム「コスモピール®」の販売を拡大しました。また、高機能フィルム製品の開発・生産能力を強化し、フィルム事業基盤をさらに強固にするため、本年10月1日付で、帝人株式会社が保有する子会社2社の全株式を取得しました。商号は、東洋紡フィルムソリューション株式会社およびPT.INDONESIA TOYOBO FILM SOLUTIONSに変更しています。

昨年9月の火災事故により、エアバッグ用原糸、機能性クッション材「ブレスエアー®」の製造設備などが焼失しましたが、代替品により販売を継続しています。「ブレスエアー®」については、本年9月から新工場を立ち上げ、生産を再開しました。

以上の結果、当期間の売上高は前年同期比2億円(0.1%)増の1,649億円となり、営業利益は同5億円(4.8%)増の111億円、経常利益は同2億円(2.5%)増の90億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同13億円(32.0%)減の27億円となりました。

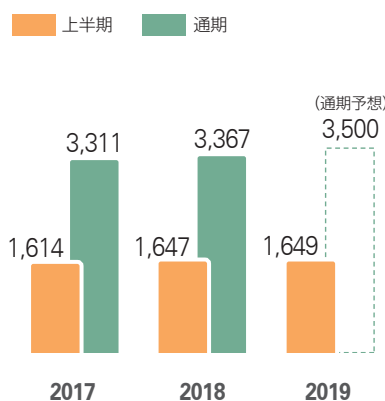


代表取締役社長

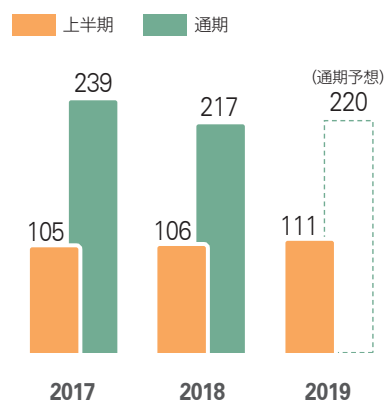
杉原誠慈

162中間期 業績ハイライト

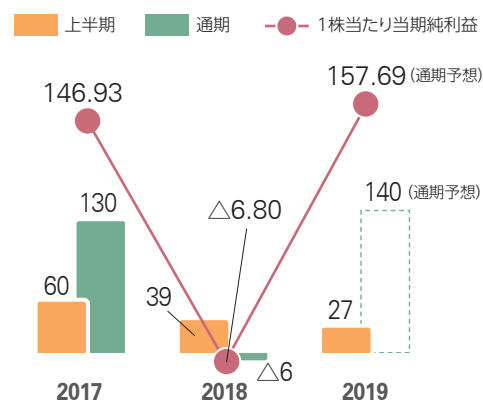
売上高 (億円)



営業利益 (億円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (億円)・1株当たり当期純利益 (円)



通期業績の見通し

通期業績予想につきましては、工業用フィルムの好調維持が見込めるなど、概ね計画どおりに推移していることから、売上高、営業利益および経常利益については変更ありません。

しかしながら、昨年9月の火災事故に伴う代替品調達に関連する費用などが増加し、当期間において火災による損失(特別損失)を26億円計上したことに加え、第3四半期以降は、固定資産処分損(特別損失)の増加が予想されることなどから、親会社株主に帰属する当期純利益を見直し、売上高3,500億円(前期比133億円増)、営業利益220億円(前期比3億円増)、経常利益180億円(前期比2億円増)、親会社株主に帰属する当期純利益140億円(前期比146億円増)を予想しています。

配当について

当社は、安定的な配当の継続を基本としつつ、持続性のある利益水準、将来投資のための内部留保、財務体質の改善などを総合的に勘案のうえ、総還元性向30%を目安として、自己株式の取得を含めた株主還元を行ってまいります。

上記方針を踏まえ、中間配当につきましては見送らせていただきましたが、期末配当は、現時点において1株当たり40円を予定しております。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

セラミックコンデンサ用離型フィルム加工設備を増設

TOPICS 01

～ 車載向け用途の需要拡大に応じ、生産体制を強化 ～

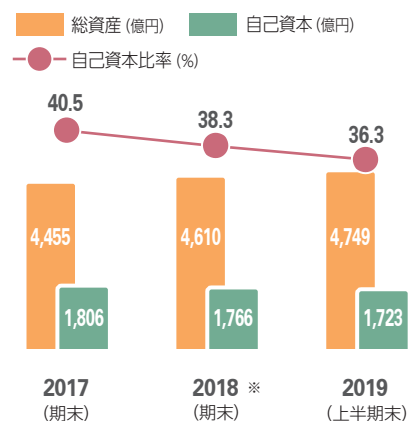
当社は、セラミックコンデンサ(以下、セラコン)の製造に不可欠な離型フィルム「コスモピール®」の製造設備を増設(2号機)します。本年稼働する1号機に続き、2021年春をめどに稼働させる予定で、生産能力をさらに引き上げます。

さまざまな電子回路に搭載されるセラコンは、スマートフォンの高機能化や自動車の電装化・電動化の進展により搭載数が急増しています。当社は、平滑性に優れたフィルムを製造する独自技術と高度なクリーン環境を維持できる加工技術を生かし、ハイエンド品と位置づけられる超小型セラコン向けなど、旺盛な需要に応え、事業拡大を図ってまいります。

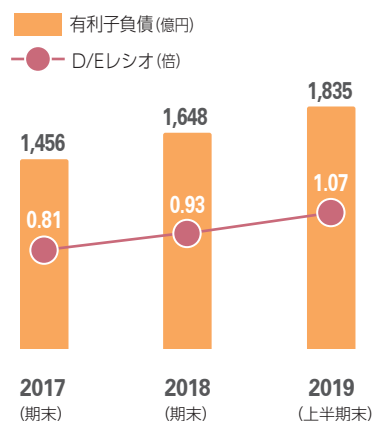


1号機と2号機が設置される工場棟(建設中)

総資産・自己資本・自己資本比率



有利子負債・D/Eレシオ



※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を2018年度の期首から適用しており、2017年度の経営指標については、当該会計基準等を通じて適用した後の数値で表示しています。



事業別業績の概要



Films & Functional Polymers

フィルム・機能樹脂事業

フィルム事業では、包装用フィルムは、世の中の環境意識の高まりを受け、環境に配慮したポリエステルフィルムの販売は好調でしたが、天候不順の影響を受けました。工業用フィルムは、液晶偏光子保護フィルム「コスモシャインSRF®」が大手偏光板メーカー向けの販売を順調に拡大し、セラミックコンデンサ用離型フィルム「コスモピール®」の販売は堅調に推移しました。

機能樹脂事業では、ポリオレフィン用接着性付与剤「ハーアドレン®」が販売を伸ばしましたが、エンジニアリングプラスチックは、中国向けの非自動車用途の樹脂販売が不調でした。

売上高 **764** 億円 **1.7%** 減 (前年同期比) 営業利益 **82** 億円



Industrial Materials

産業マテリアル事業

エアバッグ用基布は、火災の影響を受け苦戦しました。スーパー繊維事業では、「イザナス®」はロープ用途を中心に販売を伸ばし、「ザイロン®」は自転車タイヤ用途などの販売を拡大しました。

生活・産業資材事業では、機能性クッション材「ブレスエアー®」は、火災の影響を受け販売が減少しました。

売上高 **330** 億円 **1.0%** 増 (前年同期比) 営業利益 **5** 億円

(営業利益 消去 全社15億円)



Healthcare

ヘルスケア事業

バイオ・メディカル事業では、診断薬用酵素が海外への販売を拡大しました。

機能膜・環境事業では、VOC処理装置・エレメントが国内外で堅調に推移し、海水淡水化用逆浸透膜は交換膜の出荷前倒しもあり販売が伸びました。

売上高 **190** 億円 **19.3%** 増 (前年同期比) 営業利益 **28** 億円



Textiles & Trading

繊維・商事事業

中東向け特化生地は市況が回復し販売を伸ばし、ユニフォーム用途は企業向け制服の販売が順調に伸びました。一方、アクリル繊維は産業資材用途へのシフト中も、原料価格変動の影響を受け需要が低迷しました。

売上高 **301** 億円 **5.3%** 減 (前年同期比) 営業利益 **▲1** 億円



Others

不動産事業/その他事業

不動産、エンジニアリング、情報処理サービス、物流サービス等のインフラ事業は、それぞれ概ね計画どおりに推移しました。

売上高 **65** 億円 **3.4%** 減 (前年同期比) 営業利益 **13** 億円

四半期連結貸借対照表の要旨 (単位:百万円)

| 科目 | 当上半期末 (2019年9月30日現在) | 前期末 (2019年3月31日現在) | 科目 | 当上半期末 (2019年9月30日現在) | 前期末 (2019年3月31日現在) |
|-------------|-------------------------|-----------------------|--------------|-------------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | | 負債の部 | | |
| 流動資産 | 202,405 | 193,125 | 流動負債 | 130,279 | 131,768 |
| 固定資産 | 272,503 | 267,922 | 固定負債 | 167,256 | 148,053 |
| 有形固定資産 | 217,755 | 208,476 | 負債合計 | 297,535 | 279,821 |
| 無形固定資産 | 3,568 | 3,654 | 純資産の部 | | |
| 投資その他の資産 | 51,179 | 55,792 | 株主資本 | 134,429 | 135,378 |
| 資産合計 | 474,908 | 461,047 | その他の包括利益累計額 | 37,844 | 41,206 |
| | | | 非支配株主持分 | 5,100 | 4,641 |
| | | | 純資産合計 | 177,373 | 181,226 |
| | | | 負債・純資産合計 | 474,908 | 461,047 |



フィルム&コーティング分野の事業基盤強化

TOPICS 02

～ 国内外のフィルム製造・販売会社を買収 ～

当社は、本年5月、帝人株式会社（本社：大阪市北区）との間で、同社子会社の帝人フィルムソリューション株式会社（本社：東京都千代田区）、P.T. Indonesia Teijin Film Solutions（本社：インドネシア）のそれぞれの全株式を当社が取得する契約を締結しました（本年10月1日付で完全子会社化）。

この買収により、当社グループは、高い開発力、生産技術と、幅広い製品ラインアップを加えるとともに、海外生産体制の強化により、さらなるグローバル化を進め、フィルム事業の基盤を一層強固なものにしていきます。



東洋紡フィルムソリューション株式会社 宇都宮事業所

TOPICS 03

コラーゲン使用人工骨「ボナーク®」の製造販売承認を取得

～ 東北大学と共同で製品化 ～

当社は、本年5月、厚生労働省よりコラーゲン使用人工骨「ボナーク®」の製造販売承認を取得しました。

「ボナーク®」は、当社が東北大学（宮城県仙台市）と共同で製品化を進めてきた医療機器です。リン酸オクタカルシウム（OCP）と医療用コラーゲンを原材料とするスポンジ状のディスクで、病気やけがなどで骨が欠損した部位に埋め込むと、周囲の細胞の再生能力を活性化させ、新生骨の形成を誘導します。

本年度中に販売代理店を選定し、まずは歯科・口腔外科向けに販売を開始します。また、整形外科や脳外科分野への展開など、適用範囲の拡大もめざしていきます。

特長

- 自家骨移植と異なり、患者の健全な骨を採取する必要がなく、負担を大幅に軽減
- 自家骨と同等の性質をもつ新生骨の形成を誘導



コラーゲン使用人工骨「ボナーク®」

四半期連結損益計算書の要旨 (単位:百万円)

| 科目 | 当上半期累計 (自 2019年4月 1日 至 2019年9月30日) |
|------------------|------------------------------------|
| 売上高 | 164,909 |
| 売上原価 | 124,262 |
| 売上総利益 | 40,647 |
| 販売費及び一般管理費 | 29,534 |
| 営業利益 | 11,114 |
| 営業外収益 | 1,441 |
| 営業外費用 | 3,594 |
| 経常利益 | 8,961 |
| 特別利益 | 32 |
| 特別損失 | 4,783 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 4,210 |
| 法人税等 | 1,682 |
| 四半期純利益 | 2,528 |
| 非支配株主に帰属する四半期純損失 | 135 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 2,662 |

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (単位:百万円)

| 科目 | 当上半期累計 (自 2019年4月 1日 至 2019年9月30日) |
|--------------------------------|------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 14,510 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 15,158 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 11,947 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △ 388 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 10,911 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 22,167 |
| 連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 303 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 33,382 |

(記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しております。)

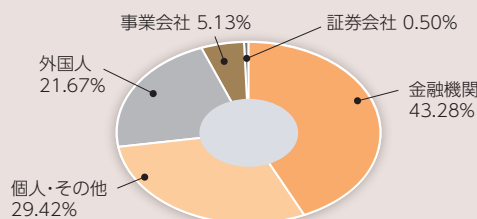
社名 東洋紡株式会社
 英文社名 TOYOBO CO., LTD.
 証券コード 3101
 創立 1882年(明治15年)5月3日
 設立 1914年(大正3年)6月26日
 資本金 51,730,003,166円
 本社 大阪市北区堂島浜二丁目2番8号
 (代表 06-6348-3111)
 東京支社 東京都中央区京橋一丁目17番10号
 名古屋支社 名古屋市中区市場木町390番地
 従業員数 連結 9,688名 単体 3,189名

役員

| | |
|----------------|------|
| 代表取締役会長 | 坂元龍三 |
| 代表取締役社長 社長執行役員 | 榑原誠 |
| 代表取締役 専務執行役員 | 渡邊賢 |
| 取締役 常務執行役員 | 竹中茂夫 |
| 取締役 常務執行役員 | 上乃均 |
| 取締役 常務執行役員 | 西山重雄 |
| 取締役 (注)1 | 岡村敏 |
| 取締役 (注)1 | 中村勝 |
| 取締役 (注)1 | 磯貝恭史 |
| 取締役 (注)1 | 桜木君枝 |
| 監査役 (常勤) | 永田種昭 |
| 監査役 (常勤) | 飯塚康広 |
| 監査役 (注)2 | 竹中史郎 |
| 監査役 (注)2 | 杉本宏之 |

(注)1 取締役のうち岡村敏氏、中村勝氏、磯貝恭史氏および桜木君枝氏は社外取締役です。
 (注)2 監査役のうち竹中史郎氏および杉本宏之氏は社外監査役です。

発行可能株式総数 200,000,000株
 発行済株式の総数 89,048,792株
 (自己株式236,488株含む)
 株主数 58,367名
 株式分布の状況(所有者別)



大株主

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|------------------------------------|---------|---------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 7,856 | 8.85 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 6,738 | 7.59 |
| 全国共済農業協同組合連合会 | 3,558 | 4.01 |
| 日本生命保険相互会社 | 1,750 | 1.97 |
| 東友会 | 1,732 | 1.95 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9) | 1,671 | 1.88 |
| 東洋紡従業員持株会 | 1,615 | 1.82 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5) | 1,588 | 1.79 |
| JP MORGAN CHASE BANK 385151 | 1,435 | 1.62 |
| DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO | 1,411 | 1.59 |

(注) 持株比率は、自己株式(236,488株)を控除して計算しています。

関係会社

| | 国内 | 海外 | 計 |
|---------|----|----|----|
| 連結子会社 | 23 | 29 | 52 |
| 持分法適用会社 | 4 | 2 | 6 |
| 計 | 27 | 31 | 58 |

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 (期末の配当金受領株主確定日 3月31日)
 定時株主総会 6月に開催します。
 基準日 定時株主総会の基準日は3月31日です。
 その他必要のあるときは、あらかじめ公告して定めます。
 単元株式数 100株
 当社は、2017年10月1日をもって、単元株式数を
 1,000株から100株に変更しました。
 公告掲載ホームページアドレス <https://www.toyobo.co.jp>
 電子公告による公告ができない場合、日本経済新聞
 に掲載します。
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および
 全国各支店で行っています。

各種手続のお申出先

- 住所変更、名義変更、配当金の受け取り方法のご指定、
 単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

| 区分 | お申出先 |
|-----------------------|---|
| 証券会社でお取引をされている株主さま | 株主さまの口座のある証券会社 |
| 特別口座(証券会社に口座のない)の株主さま | 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (上記、電話照会先をご参照ください。) |

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

単元未満株式(1~99株)をお持ちの方へ

単元未満株式をお持ちの場合、当社に対して、次の請求を行うことにより、
 売却または100株におまとめいただくことができます。ぜひ、以下の制度
 をご利用ください。



単元未満株式の
買取を請求する。



単元株式(100株)に
するため、不足する株数の
株式の売り渡しを請求する。

(例) 当社株式65株をお持ちの場合



お手続方法につきましては、上記のお申出先へお問合せください。